

ッシュと同様にガス体の違法ドラッグとみることもできよう。これらの薬物について、生涯乱用経験、誘われた経験、身近な乱用者の存在、入手可能性について調べた。

大麻乱用に対する意識は、「大麻の危険性についての認識」および「大麻を使ってみたい気持ち」をそれぞれ4段階で尋ねた。大麻種子に対するイメージは、大麻の種子から連想すること（例えば、大麻の栽培、食材、インターネットで購入する、観賞するなど）を8項目挙げた。大麻の栽培方法や乱用方法に関する情報への曝露状況については、そのような情報が書かれた雑誌や書籍を目にした経験を尋ね、経験がある場合は具体的な雑誌名や書籍名を自由記載で回答させた。なお、これらの質問は調査実施の都合上、A大学175名（4年生）のみに対して行った。大麻種子に関する設問は、筆者らが昨年度実施した薬物依存者のデータ<sup>8,9)</sup>と比較した。

飲酒は、生涯経験、過去30日間の飲酒および頻度、危険飲酒行動（イッキ飲み、飲酒によるブラックアウト、アルコール・ハラスメントの被害経験）、大人不在下での飲酒経験について調べた。なお、ブラックアウトについては、「飲酒による一時的な健忘・記憶喪失体験」と補足説明を加えた。

喫煙は、生涯経験、開始年齢、過去30日間の喫煙および頻度、禁煙経験について調べた。

精神健康度についてはWHOによるGHQ(General health questionnaire)の短縮版であるGHQ28の日本語版を使用した<sup>11)</sup>。この項目は、A大学382名（新入生）およびB大学75名（4年生）に対して実施した。なおGHQ28の総得点は、先行研究<sup>12,13)</sup>を検討し7点以上をカットオフとした。

その他、基本属性、生活習慣、各問題行動の生涯経験（計19項目）についても調べた。

#### 4. データマネジメントと統計解析

調査用紙は、研究協力者の監督下で、個人

用封筒が開封され、ID番号をナンバリングした後、電子メディアへのインプットを行った。調査用紙記載内容の電子メディアへの入力は、業者に委託した。業者委託に際しては、誓約書を業者に提出させ、情報漏洩防止を徹底した。

作成されたデータセットをクリーニングした後、全変数について単純集計を行った上で、4年生（4年生）との比較を行った。また、一部の変数については2006～2009年度の年次推移を検証した。なお有意差検定は、原則としてフィッシャーの正確確率検定を用い、一部のデータに対しては傾向性の検定を用いた。以上の統計解析には統計パッケージSPSS for windows 17.0.1Jを用いた。

### C. 研究結果

#### 1. 基本的属性

表1に基本属性に関する結果をまとめた。男子学生が31.7%、女子学生が68.3%、平均年齢は18.6歳であった。現在の住まいは、「血縁関係者と同居」が49.1%と最も多く、「一人暮らし」50.1%、「非血縁関係者と同居」0.8%と続いた。

4年生（4年生）と比較すると、性別には差がないが、4年生は対象者よりも年齢が高く（22.3歳 vs 18.6歳、 $p < 0.001$ ）、一人暮らしの割合が高く（63.7% vs 50.1%、 $p = 0.001$ ）、それぞれ有意差が認められた。

#### 2. 生活習慣

表2に生活習慣に関する結果をまとめた。大学生活への満足度は、「満足」という回答が54.2%と最も多く、「どちらとも言えない」33.5%、「非常に満足」8.6%と続いた。起床・就寝のリズムについては、「どちらかといえば規則的」という回答が46.1%と最も多く、「どちらかといえば不規則」35.6%、「不規則」10.5%と続き、「規則的」という回答が7.9%と最も少なかった。過去30日間の平均睡眠時間は、「6～7時間」という回答が40.3%と最

も多く、「5～6時間」27.2%、「7～8時間」22.0%と続いた。昼夜逆転の頻度は、「なし」とする回答が51.3%と最も多く、「あったが週1回より少ない」24.6%、「週1回程度」12.0%、「週に数回程度」11.8%と続いた。

新入生を4年生と比較すると、すべての項目で有意差が認められた（すべて $p<0.001$ ）。4年生は新入生よりも「学生生活への満足度」が低く、睡眠時間が短く、昼夜逆転の頻度が高くなる傾向がみられた。また起床や就寝の規則性については、4年生は新入生に比べて「規則的」という回答が多いのと同様に、「不規則」という回答も多かった。

### 3. アルバイトおよび収入

表3にアルバイトおよび収入に関する結果をまとめた。全体の18.6%は、現在何らかのアルバイトしていた。その頻度は、「週に3～6日」という回答が49.3%と最も多く、「週1～2日」31.0%、「不定期」14.1%と続いた。アルバイトの時間帯としては、「午後」が97.2%と最も多く、「午前中」38.0%、「深夜」9.9%と続いた（複数回答）。1ヶ月間で自由に使える金額としては、「1～2万円」という回答が30.9%と最も多く、「1万円未満」25.1%、「2～3万円」24.6%と続いた。

4年生と比較すると、4年生は新入生よりもアルバイトをしている割合（50.8% vs 18.6%、 $p<0.001$ ）が高く有意差が認められたが、その頻度や時間帯については有意差が認められなかった。また、自由に使える金額は、4年生の方が全体として多い傾向がみられ、有意差が認められた（ $p<0.001$ ）。

### 4. 飲酒・喫煙

表4は、飲酒に関する結果である。生涯飲酒経験者は全体の80.9%であった。生涯飲酒経験者のうち82.8%が過去30日間に飲酒を経験しており、その頻度は、「飲んだが週1回よりは少ない」が51.1%と最も多かった。また、生涯飲酒経験者の79.9%は、大人不在下の仲間だけの飲酒経験があり、18歳で

そのような経験をする割合が多かった（34.4%）。

危険飲酒行動としては、「イッキ飲み経験」が20.1%、「ブラックアウト経験」が5.2%、「アルコール・ハラスメント経験」が4.5%であった。

4年生と比較すると、月飲酒経験では群間に差がみられなかったものの、他の項目ではすべて有意差が認められた。4年生全員に生涯飲酒経験がみられ、4年生は新入生よりも飲酒頻度が高く、大人不在下での飲酒経験も多く、危険飲酒行動が多くみられた。特に危険飲酒行動では対象者との差が顕著にみられ、イッキ飲み経験は約3倍、ブラックアウト経験は約6倍、アルコール・ハラスメント経験は約6倍多かった。

表5は、喫煙に関する結果である。生涯喫煙経験者は、全体の15.2%であった。喫煙の開始年齢は、「14～15歳」とする回答が17.5%と最も多かった。生涯喫煙経験者の45.6%は月喫煙経験があり、その頻度は「ほぼ毎日」とする回答が33.3%と最も多かった。

4年生は新入生に比べ、生涯喫煙経験率が高く（ $p<0.001$ ）、初回喫煙年齢が高く（ $p=0.001$ ）、禁煙を考えたことがある割合が高く（ $p=0.001$ ）、有意差が認められた。月喫煙経験や喫煙頻度については群間に差がみられなかった。

### 5. 薬物乱用

表6～9に薬物乱用に関する結果を示した。

表6は、身近（仲間・友人・知人など）に薬物乱用者がいる割合を示したものである。何らかの薬物乱用している人が身近にいる割合は全体で7.1%であった。その内訳は、大麻が3.7%と最も多く、向精神薬3.2%、有機溶剤2.4%と続いた。一方、4年生では全体の11.0%が該当し、その内訳は向精神薬が6.7%と最も多く、大麻4.2%、有機溶剤2.5%と続いた。なお、身近でガス乱用している者がいるというケースは新入生で2名、4年生で1名みられた。ラッシュについては新入生

で1名報告された。

表7は、これまでに薬物乱用に誘われた経験を示したものである。全体の2.1%は、これまでに何らかの薬物乱用に誘われた経験を有していた。その内訳は、大麻が1.3%と最も多く、向精神薬0.8%、有機溶剤0.8%と続いた。一方、4年生では全体の3.8%が誘われた経験を有しており、その内訳は4年生においても大麻が最も多く2.5%、次いで有機溶剤が1.3%であった。ガスの乱用に誘われた経験は両群ともにみられなかったが、ラッシュの乱用に誘われたケースが4年生で1名報告された。

表8に、薬物乱用の生涯経験の結果を示した。全体の1.6%（6名）は、これまでに何らかの薬物乱用経験を有していた。その内訳は、向精神薬0.8%（3名）、大麻0.5%（2名）、有機溶剤0.3%（1名）であった。他の薬物については報告されなかった。一方、4年生では全体の2.1%に薬物乱用経験がみられ、その内訳は大麻が1.3%と最も多く、有機溶剤、覚せい剤、MDMA、コカイン、ラッシュ、向精神薬がそれぞれ1名報告された。

表9は、各薬物の入手可能性を「絶対不可能」から「簡単に手に入る」までの4段階で尋ねた結果である。「簡単に手にはいる」という回答は、有機溶剤(15.7%)、ガス(10.2%)、向精神薬(8.4%)の順に多くみられた。一方、4年生においても有機溶剤(13.0%)、ガス(9.7%)、向精神薬(9.0%)の順に多くみられた。

## 6. 大麻乱用に対する意識

乱用の危険性に対する認識は、対象者全体の83.4%が「極めて危険だと思う」と回答し、「どちらかと言えば危険」13.0%、「どちらかと言えば安全」2.4%、「かなり安全」1.2%と続いた（表10）。

使ってみたい気持ちについては、対象者全体の87.5%が「絶対使いたくない」と回答し、「どちらかと言えば使いたくない」8.9%、「どちらかと言えば使ってみたい」3.6%と続いたが、「ぜひ使ってみたい」という回答はみ

はみられなかった（表10）。

また、全体の10.2%は、大麻の栽培方法や乱用方法が書かれた雑誌・書籍を「見たことがある」と回答した（表10）。これらの学生に具体的な雑誌・書籍名を自由記載で回答させたものの、具体的な名称は何も挙がってこなかった。

表11に大麻種子から連想されることに関する結果を示した。「大麻の栽培」という回答が80.6%と最も多く、次いで「違法である」46.7%、「インターネットで買う」37.0%、「違法ではない」13.9%と続いた（複数回答）。一方、薬物依存者のデータ（昨年度実施）と比較すると、「大麻の栽培」、「インターネットで買う」、「違法である」という回答は、薬物依存者より大学生の方が高く、有意差が認められた。逆に、「食材にする」、「店で買う」、「何も思い浮かばない」と回答した割合は、薬物依存者より大学生の方が低く、有意差が認められた。なお、「観賞するもの」、「違法ではない」については群間に差はみられなかった。

## 7. ライフイベント・問題行動

表12は、ライフイベントや問題行動の生涯経験に関する結果である。いじめの被害経験(21.2%)、いじめの加害経験(17.3%)、無断外泊(10.5%)、万引き(10.2%)が、他の項目と比べて高い割合であった。一方、4年生では、いじめの被害経験(20.6%)、無断外泊(16.4%)、クラブやレイブパーティの経験(15.5%)、いじめの加害経験(11.8%)が、他の項目と比べて高い割合であった。

両者を比較すると、無断外泊の経験( $p=0.035$ )、クラブやレイブパーティの経験( $p<0.001$ )については4年生の方が有意に高いが、器物破損( $p=0.009$ )については新入生の方が有意に高かった。

## 8. 精神的健康度 (GHQ28)

表13にGHQ28の総得点の平均値を示した。総得点の平均値は、新入生が6.13（男性

5.37、女性 6.48)、4 年生が 8.01 (男性 7.00、女性 9.52) であった。

また、7 点以上をカットオフとすると、新入生の 40.1%が、4 年生の 53.7%がカットオフ値を越えていた。

## 9. 2006～2009 年度の年次推移

図 1～9 に、2006～2009 年度における新入生の飲酒・喫煙・薬物乱用の実態に関する推移を示した。

飲酒については、生涯飲酒経験とブラックアウト経験に有意な減少傾向がみられ、特に女子での減少が顕著にみられた。一方、月飲酒経験はほぼ横這い状態であった(図 1,2,3)。

喫煙については、生涯飲酒経験、月喫煙経験ともに有意な減少傾向がみられ、特に女子での減少が顕著にみられた(図 4,5)。

身近に薬物乱用者がいる割合は、全体および女子では減少傾向にあるが男子ではほぼ横這いであった。男女ともに有機溶剤の減少がみられている(図 6)。

薬物乱用に誘われた経験は、2007 年をピークとし、2008 年には一旦減少したが、2009 年では大麻と向精神薬の増加により再び上昇に転じている(図 7)。

薬物乱用生涯経験の推移は、2007 年をピークとし、2008 年には一旦減少したが、2009 年では向精神薬の増加により再び上昇に転じている(図 8)。

覚せい剤、有機溶剤、大麻の乱用経験率については 2000 年度より 10 年間のデータが蓄積されており、図 9 にその結果を示した。全体としては 2001 年をピークとし、その後減少傾向がみられたが、2005 年以降はほぼ横這い状態が続いている(図 9)。

### D. 考察

#### 1. 新入生と 4 年生の比較

本研究の対象者は、定点大学における新入生と 4 年生であった。これらデータは、同一集団を追跡したものではなく横断的なもので

あるため、1 年生から 4 年生までの大学生活を通じた「変化」について言及することはできない。しかし、同時期における大学生という観点から捉えれば、1 年生と 4 年生を横断的に「比較」することは可能であろう。以下、項目ごとに考察を行った。

#### 1)生活習慣の比較

生活習慣については興味深い相違が観察された。例えば、起床や就寝の規則性について、4 年生は新入生に比べて「規則的」という回答が多いと同様に、「不規則」という回答も多いという結果を得た。これは、学生生活を続ける中で生活リズムが「固定化」していることの表れではなかろうか。

つまり、4 年生にもなると規則的な生活ができている者と、乱れている者がより明瞭に分かれるという解釈ができよう。その背景には、一般的に 4 年生になると勉強にかけるウェイトが大きくなり、結果として起床・就寝に乱れが生じている可能性が示唆される。特に、4 年生の所属学部は講義以外にも実習を伴う科目が多く、新入生と比較すればその負担は明らかに増加する。

一方、学生の日常生活全般に注目すれば、4 年生は深夜時間帯のアルバイト就労率が高い、一人暮らしの割合が高い、クラブ遊びや無断外泊の経験も多いといった特徴がみられる。こうした相違が、「生活リズムの固定化」を促進する一因となっている可能性がある。

いずれにせよ、薬物乱用経験を持っている青少年では、生活リズムが乱れている傾向があるという知見は先行研究で繰り返し報告されている<sup>14,15)</sup>。したがって、予防の観点から考えれば、起床・就寝など生活リズムを含めた生活習慣を整えることは重要であり、大学生に対する薬物乱用防止活動の中での周知も必要であろう。

#### 2)飲酒

飲酒状況でも両群で大きな違いが観察された。4 年生は飲酒経験者が多く、特にイッキ

飲み経験やブラックアウト経験など、いわゆる危険飲酒行動の経験率が有意に高かった。

これは、大学生の多くが、大学在学中に危険飲酒行動を経験する累積効果を意味すると考えられる。大学生の急性アルコール中毒の報告<sup>16-18)</sup>もあることから、大学内で危険飲酒行動に関する予防や啓発活動を推進していくことが求められよう。近年、一部の大学では学園祭での酒類の提供を中止したり、販売時に年齢確認を行ったり、販売数を制限するなどの措置がとられるようになった<sup>19,20)</sup>。今後、こうした取り組みが全国規模に広がると同時に、学園祭以外のセッティングにおいても急性アルコール中毒を予防するような取り組みが期待される。

一方、筆者らは、先行研究において危険飲酒行動と薬物乱用との関連を調べ、危険飲酒行動をとる大学生ほど薬物乱用のリスクが高いという知見を報告している<sup>21)</sup>。つまり、危険飲酒行動は急性アルコール中毒による危険性だけでなく、薬物乱用のリスクを高める可能性もある。したがって長期的な視点から考えれば、危険飲酒行動を予防・軽減することは、薬物乱用の予防にもつながることであろう。

### 3)喫煙

4年生の生涯喫煙経験率の高さは、年齢による累積効果によるものと考えられるが、初回喫煙年齢の相違については慎重な解釈が必要である。新入生では14-16歳くらいで喫煙を始める者が多いのに対し、4年生では18-19歳以上で開始する者が多い。これは、より若い世代において喫煙の開始年齢が早まっていることを必ずしも意味するわけではないと考えられる。

新入生は18-19歳を中心とする年齢集団であり、18-19歳の時点から喫煙の好発年齢を捉えると14-16歳となる。一方、4年生の多くは22歳以上であり、大学入学後に喫煙を開始する者が増えるため、14-16歳で喫煙を開始した者の割合が相対的に小さくな

り、18歳あるいは19歳以上が喫煙開始の好発年齢となっていると考察できる。

したがって、大学生という集団を通じて喫煙の開始年齢を考えれば、中学生や高校生時期で開始するケースより、むしろ大学入学後に喫煙を開始するケースが多いという解釈ができよう。

## 2. 違法ドラッグを含む薬物乱用の実態について

先行研究を踏まえ、比較的認知度が高い違法ドラッグとして、ガス系のラッシュ（ニトライト）およびガス（ブタンガス等）を取り上げ、覚せい剤など従来から問題となっている薬物と合わせて乱用実態を調べたものの、ラッシュ乱用者が大学4年生で1名報告されたのみであり、ガス（ブタンガス等）乱用者は新入生・4年生どちらにおいてもみられなかった。その一方で、向精神薬および大麻の乱用が報告された。

これらの知見より、ラッシュやブタンガスなどガス系の違法ドラッグは概ね下火となっている可能性が考えられる。特に大学生における薬物乱用で注意を要するのはむしろ、向精神薬や大麻であると言えよう。

ラッシュは、2007年の薬事法改正に伴い「指定薬物」の対象となった薬物である<sup>22)</sup>。指定薬物は医療等の用途を除いて製造や輸入やその広告が禁止され、行政は指定薬物の検査・廃棄・回収・立入検査などが可能となる。また、指定薬物の製造・輸入・販売・授与・販売・授与の目的で貯蔵・陳列には罰則が設けられる<sup>23)</sup>。大学生の間でのラッシュの乱用がほとんどみられなかった背景には、この新しい規制システムにより、流通が抑えられたことも影響しているかもしれない。

## 3. 大麻乱用に関する意識や実態について

対象者の多くは大麻についての危険性を認識しており、乱用に対しては否定的な態度を示していたことは、高校までの薬物乱用防止教育の効果として評価できると考えられる。

しかし、その一方では約 1 割の学生が大麻の栽培方法や乱用方法が書かれた乱用を肯定するような雑誌・書籍を目にしている点には注意が必要である。また、近年インターネットなどで入手した大麻種子による不正栽培が問題となっているが、対象者の 4 割近くが大麻種子から連想されるものとして「インターネットでの購入」と回答している点にも注目したい。

こうしたメディアの情報に曝露されたすべての大学生が大麻乱用を肯定し、乱用に対する動機が高まるということはないと思われるが、各種メディアに刺激されて薬物乱用に興味を持ち始める大学生がいてもおかしくないだろう。いずれにせよ、大学生などの若者が薬物乱用を肯定するような各種メディアに日々曝されている事実は重く受け止めるべきであろう。

青少年におけるメディア研究は国際的には広範に行われているものの<sup>24)</sup>、国内では喫煙に関する研究<sup>25,26)</sup>が若干実施されているものの、薬物乱用については筆者が調べた範囲では見付けることができなかった。今後は、雑誌・書籍をはじめ、インターネットなど若者が接している薬物乱用に関する情報源をつきとめ、その情報が薬物乱用に対してどのような影響を及ぼしているのかといったメディア研究を検討していく必要があるのかもしれない。

#### 4. 年次推移（新入生のトレンド）

本研究は、定点大学における調査であるため、全国の大学生を代表するデータではないが、飲酒・喫煙を含めた薬物乱用の状況を経年的に観察している数少ない研究である。同一大学において特定の講義を履修する学生の基本属性や学力は、ほぼ一定していると考えられるため、経年的な推移を把握することで、大学生の薬物乱用のトレンドの一端を把握することは可能と判断している。

本研究では 2006～2009 年までの新入生における推移を分析したが、飲酒・喫煙・薬物

乱用ともに全体としては減少傾向にあると言えそうである。

##### 1) 飲酒について

項目ごとに検討を行うと、生涯飲酒経験は全体および女子で有意な減少傾向にあるが、男子では有意な減少傾向がみられておらず、月飲酒経験についてはいずれも有意な減少がみられていないと解釈できる。

尾崎らは、中高校生を対象とした全国調査（1996 年、2000 年、2004 年の 3 回）を通じ、飲酒率（飲酒経験率、月飲酒率、週飲酒率のいずれも）の減少を報告している<sup>27)</sup>。本研究における飲酒経験自体の減少傾向は、尾崎らの知見と一致するものであり、この背景には 2001 年の未成年者飲酒禁止法改正により、酒類の販売時における年齢確認の強化や、罰則の強化により、アルコールへのアクセスが制限されたことが影響していると考えられる。一方、月飲酒率が減少していない背景には、大学入学後の飲酒機会（新入生歓迎の飲み会など）が影響している可能性が考えられる。

##### 2) 喫煙について

前述の全国調査では、中高生の喫煙についても減少傾向にあることが報告されているが<sup>28)</sup>、本研究では全体と女子では減少傾向がみられたものの、男子は横這い状態であった。また、2004 年の全国調査によれば、高校生男子の喫煙経験率は 36.0%、高校生女子で 24.0%であり、本研究の喫煙経験は特に女子において顕著な差がみられている。

こうした知見の相違は恐らく、本研究対象者が大学に入学できるくらいの知識・教育レベルを有する集団というセレクション・バイアスが結果に影響を及ぼしている可能性が考えられる。つまり、本研究の対象者は、より健康に対する知識や意識が高い集団であり、結果として喫煙率についても差がみられたという解釈ができよう。

### 3)薬物乱用について

薬物乱用経験や誘われた経験は、報告数自体が少ないため、バラツキが大きく全体的なトレンドを掴むことは困難であった。一方、「身近に乱用者がいる割合」は、2007年以降減少傾向にあり、有意差がみられている。

これは有機溶剤を乱用する者が減少したことによるものである。和田らの全国中学生調査において有機溶剤乱用経験者自体の減少傾向が報告<sup>29)</sup>されている事実は、本研究の結果を裏付けるデータといえよう。しかし、有機溶剤を乱用する者が身近でなくなった一方で、身近で大麻や向精神薬を乱用する者が減少していない点には注意を要する。

### 5. 再乱用防止の重要性

薬物乱用防止5カ年戦略は、わが国の薬物乱用防止対策の柱であるが、平成20年に発表された第三次薬物乱用防止5カ年戦略<sup>30)</sup>において「大学等に対し、入学時のガイダンスの活用を促し、その際に活用できる啓発資料を作成するなどの啓発の強化を図る」と明記され、薬物乱用に関する1次予防の取り組みが大学生までに拡大されるようになった。

米国では、法律（Drug Free Schools and Communities Act Amendments of 1989）<sup>31)</sup>により、学生によるアルコール・薬物乱用を予防するためのプログラムを実施することを大学に義務付けられており、次の4つの情報を学生に提供することが最低限求められている<sup>32)</sup>。

- ① アルコール・薬物乱用は法律で制限されていること
- ② 地域、州、連邦の法律および学則に違反した際のペナルティ
- ③ アルコール・薬物乱用の健康リスク
- ④ アルコール・薬物に関するカウンセリング、治療、リハビリテーションプログラムが利用できること。

この法律に基づき、米国の大学では独自のアルコール・薬物ポリシーを作成し、大学のホームページに掲載している場合が多い<sup>33)</sup>。

再乱用防止の観点から考えれば、4番目のカウンセリング、治療、リハビリテーションプログラムの提供は極めて重要であろう。

わが国の大学においても、学内に設置されている健康管理センターや学生相談室を中心とするアルコール・薬物に関する相談事業やカウンセリングの充実が今後期待される。また、精神保健福祉センターなどの外部専門機関と大学が連携を図りながら、アルコール・薬物問題に取り組んでいくことも求められよう。

### E. 結論

本研究により以下の知見が得られた。

- 1) ラッシュ乱用者は大学4年生で1名報告されたのみであった。
- 2) ガス乱用者は新入生・4年生どちらにおいてもみられなかった。
- 3) 新入生において最も乱用されていた薬物は向精神薬0.8%（3名）であり、大麻0.5%（2名）、有機溶剤0.3%（1名）と続いた。
- 4) 4年生において最も乱用されていた薬物は大麻1.3%（3名）であった。
- 5) 4年生の10.2%は、大麻の栽培方法や乱用方法が書かれた雑誌・書籍を見た経験を有していた。
- 6) 大麻種子から連想されることは大麻栽培（80.6%）、違法（46.7%）、インターネットで買う（37.0%）であった。

### F. 参考文献

1. 厚生労働省：違法ドラッグ（いわゆる脱法ドラッグ）対策のあり方について（提言）、脱法ドラッグ対策のあり方に関する検討会、2005。
2. 和田清，嶋根卓也，江頭伸昭，三島健一，藤原道弘：大学生における違法ドラッグを含む薬物乱用の実態に関する研究。平成18年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラ

- トリーサイエンス総合研究事業) (H18-医薬-一般-018)「違法ドラッグの薬物依存形成メカニズムとその乱用実態に関する研究」研究報告書.pp66-96, 2007.
3. 和田清, 嶋根卓也: 定時制高校生における違法ドラッグを含む薬物乱用の実態に関する研究. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) (H18-医薬-一般-018)「違法ドラッグの薬物依存形成メカニズムとその乱用実態に関する研究」研究報告書. pp97-126, 2007.
  4. 和田清, 嶋根卓也, 鈴木雅子, 長岡邦子: 高校生における違法ドラッグを含む薬物乱用の実態に関する研究. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) (H18-医薬-一般-018)「違法ドラッグの薬物依存形成メカニズムとその乱用実態把握に関する研究」研究報告書. pp65-84. 2008.
  5. 産経新聞社(産経ニュース Web 版): 大麻種子も絶対ダメ! 輸入業者に初適用,2008.7.29
  6. 毎日新聞社地方版: 大麻取締法違反: ネットで入手、高校生ら 6 人摘発 容疑で県警/鹿児島,2008.11.7
  7. 朝日新聞(神奈川版): 種販売ネットで堂々 探る大麻汚染,2008.12.8
  8. 和田清, 嶋根卓也: 民間リハビリテーション施設の薬物依存者における違法ドラッグ・大麻種子等の乱用実態に関する研究. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) (H18-医薬-一般-018)「違法ドラッグの薬物依存形成メカニズムとその乱用実態把握に関する研究(主任研究者: 船田正彦)」研究報告書. pp 109-130. 2009.
  9. 嶋根卓也: 大麻種子の取り扱いに関する研究-薬物依存リハビリテーション施設における調査より-, 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009.10.21-23.
  10. 毎日新聞(夕刊) 社会面: なぜ? 「種子なら OK」大麻乱用「誘い水」、2009.4.20.
  11. Goldberg,D.P.: 日本版 GHQ 精神健康調査票(日本版著者: 中川 泰彬、大坊 郁夫)、日本文化科学社、1985.
  12. 福西 勇夫: 日本版 General Health Questionnaire(GHQ)の cut-off point. 心理臨床 3:228-234,1990.
  13. 立森久照, 齋藤高雅, 栗田広: 一般健康調査(General Health Questionnaire:GHQ)を用いた大学生における健康状態の経年変化についての研究. 臨床精神医学 28(1),65-73,1999.
  14. Wada, K.,Fukui, S: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.
  15. Wada, K.: Prevalence of solvent inhalation among junior high school students in Japan and their background lifestyle: result of Chiba prefecture survey 1994.Japanese Journal of alcohol studies and drug dependence. 37: 41-56, 2002.
  16. 寺尾英夫, 藤田長太郎, 甲斐道子, 他: 大学生の急性アルコール中毒の実態、CAMPUS HEALTH.35(1): 334-337, 1999.
  17. イッキ飲み防止連絡協議会: アルコール・ハラスメント「アルハラ 110 番」にみる被害の実態と対策、ASK(アルコール問題全国市民協会),2000.
  18. 葛輝子, 他: 大塚洋久大学生のイッキ飲みイッキ飲ませの実態、CAMPUS HEALTH.38(2),244-247,2002.
  19. 朝日新聞: 飲酒OK? リストバンドで識別 芝浦工大学園祭、2008.11.3
  20. 西日本新聞: 「九大祭も「断酒」宣言 大学・トラブル責任回避 学生・盛り上げ役なのに、2008.11.8
  21. 嶋根卓也, 和田清, 三島健一、藤原道弘: 危険飲酒行動と薬物乱用リスクグループとの関連について\_大学新入生を



- 対象とした調査より- . 日本アルコール・薬物医学会雑誌.44(6):649-658.2009.
22. 船田正彦：キーワード解説 違法ドラッグ(いわゆる脱法ドラッグ).日本薬理学雑誌、130 (5) : 433-435, 2007.
  23. 厚生労働省「薬事・食品衛生審議会」：平成19年度第1回指定薬物部会、参考資料 No. 1 薬事法抜粋（指定薬物関係部分）,2007.
  24. 神田秀幸, 尾崎米厚, 谷畑健生：未成年者を対象とした喫煙対策の世界的動向 Cochrane Database of Systematic Reviews における文献考察. 保健医療科学 54(4),278-283,2005.
  25. 尾崎米厚：青少年の喫煙行動,関連要因,および対策.保健医療科学 54(4),284-289,2005.
  26. 村田陽平：未成年者の喫煙対策と喫煙マナー広告 - 「大人たばこ養成講座」広告にみられる価値観の問題性から- . 保健医療科学 54(4),300-308,2005.
  27. 尾崎米厚, 谷畑健生, 神田秀幸, 他：わが国の中高生の飲酒率の低下に関連する要因. 第17回日本疫学会学術総会講演集(広島) 230 : 2007.
  28. 尾崎米厚, 谷畑健生, 神田秀幸, 他：わが国の中高生の喫煙率はなぜ下がったか?. 第65回日本公衆衛生学会総会抄録集(富山) 646 : 2006.
  29. 和田清, 嶋根卓也, 尾崎米厚, 勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査(2008年). 平成20年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)(H19-医薬-一般-025)「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」研究報告書. Pp15-85, 2009.
  30. 薬物乱用対策推進本部：第三次薬物乱用防止五か年戦略, 内閣府, 2008.
  31. Library of Congress:PL 101-226, Drug Free Schools and Communities Act Amendments of 1989. 1989; Section 22.
  32. Faden VB, Baskin ML.: An evaluation of college online alcohol-policy information. J Am Coll Health. 51(3):101-7. 2002.
  33. National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism(NIAAA):College Drinking: Changing the Culture (<http://www.collegedrinkingprevention.gov/policies/default.aspx>).

## G. 研究発表

### 1.論文発表

- 1) 嶋根卓也, 和田清, 三島健一, 藤原道弘：危険飲酒行動と薬物乱用リスクグループとの関連について\_大学新入生を対象とした調査より- . 日本アルコール・薬物医学会雑誌.44(6):649-658.2009.
- 2) 嶋根卓也：定時制高校に在籍する思春期のこころ、思春期のこころと性「故意に自分の健康を害する」症候群(編集 松本俊彦)、現在のエスプリ、ぎょうせい、509,39-52,2009.
- 3) 嶋根卓也：思春期における飲酒・薬物乱用の実態と予防について、小児科医のための思春期医学・医療.小児科,50(11),1923-1929,2009.

### 2.学会発表

- 1) 嶋根卓也：大麻種子の取り扱いに関する研究-薬物依存リハビリテーション施設における調査より-, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009.10.21-23.
- 2) 嶋根卓也, 和田清：民間リハビリテーション施設の薬物依存者における違法ドラッグの乱用状況について. 第44回日本アルコール・薬物医学会総会, 横浜, 2009.9.7-9.
- 3) 和田清, 尾崎米厚, 嶋根卓也：大麻乱用の諸問題 薬物乱用・依存の今日的状況 有機溶剤、覚せい剤から脱法ドラッグ、

リタリン、大麻等、使用しても捕まらない薬物へのシフト。第 44 回日本アルコール・薬物医学会総会， 横浜， 2009.9.7-9.

#### I. 知的財産権の出願・登録状況

特許取得、実用新案登録、その他  
特になし。

表1.対象者の基本属性

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
性別			0.602
男性	121 (31.7)	84 (33.9)	
女性	261 (68.3)	164 (66.1)	
平均年齢(歳)	18.6	22.3	<0.001
現在の住まい			0.001
血縁関係者と同居	187 (49.1)	87 (35.1)	
一人暮らし	191 (50.1)	158 (63.7)	
非血縁関係者と同居	3 (0.8)	3 (1.2)	

表2.生活習慣に関する結果

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
学生生活への満足度			<0.001
非常に満足	33 (8.6)	10 (4.0)	
満足	207 (54.2)	122 (48.8)	
どちらともいえない	128 (33.5)	79 (31.6)	
不満	13 (3.4)	31 (12.4)	
非常に不満	1 (0.3)	8 (3.2)	
起床や就寝のリズム			<0.001
規則的	30 (7.9)	32 (12.8)	
どちらかといえば規則的	176 (46.1)	94 (37.6)	
どちらかといえば不規則	136 (35.6)	73 (29.2)	
不規則	40 (10.5)	51 (20.4)	
平均睡眠時間*			<0.001
5時間未満	16 (4.2)	41 (16.4)	
5～6時間未満	104 (27.2)	102 (40.8)	
6～7時間未満	154 (40.3)	75 (30.0)	
7～8時間未満	84 (22.0)	25 (10.0)	
8～9時間未満	20 (5.2)	3 (1.2)	
9時間以上	4 (1.0)	4 (1.6)	
昼夜逆転の頻度*			<0.001
なし	196 (51.3)	93 (37.3)	
あったが週1回より少ない	94 (24.6)	89 (35.7)	
週1回程度	46 (12.0)	46 (18.5)	
週に数回程度	45 (11.8)	19 (7.6)	
ほぼ毎日	1 (0.3)	2 (0.8)	

\*過去30日間について

表3.アルバイト・収入に関する結果

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
現在、アルバイトをしているか			<0.001
はい	71 (18.6)	125 (50.8)	
いいえ	311 (81.4)	121 (49.2)	
アルバイトの頻度			0.063
ほぼ毎日	4 (5.6)	3 (2.4)	
週3～6日	35 (49.3)	42 (33.6)	
週1～2日	22 (31.0)	58 (46.4)	
不定期	10 (14.1)	22 (17.6)	
アルバイトの時間帯(複数回答)			
早朝	2 (2.8)	11 (8.8)	0.139
午前中	27 (38.0)	36 (28.8)	0.205
午後	69 (97.2)	112 (89.6)	0.090
深夜	7 (9.9)	21 (16.8)	0.208
自由に使えるお金			<0.001
1万円未満	96 (25.1)	16 (6.6)	
1～2万円未満	118 (30.9)	67 (27.6)	
2万～3万円未満	94 (24.6)	66 (27.2)	
3～5万円未満	51 (13.4)	64 (26.3)	
5～10万円未満	20 (5.2)	27 (11.1)	
10万円以上	3 (0.8)	3 (1.2)	

表4. 飲酒に関する結果

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
生涯飲酒経験			<0.001
あり	309 (80.9)	246 (100.0)	
なし	73 (19.1)	0 (0.0)	
月飲酒経験(過去30日)			0.154
あり	256 (82.8)	214 (87.3)	
なし	53 (17.2)	31 (12.7)	
過去30日間の飲酒頻度 <sup>b</sup>			<0.001
飲んでいない	53 (17.2)	31 (12.7)	
飲んだが週1回よりは少ない	158 (51.1)	96 (39.2)	
週に1回程度	56 (18.1)	60 (24.5)	
週に数回	39 (12.6)	51 (20.8)	
ほぼ毎日	3 (1.0)	7 (2.9)	
大人不在下での飲酒経験			<0.001
あり	247 (79.9)	227 (92.3)	
なし	62 (20.1)	19 (7.7)	
大人不在下での飲酒を初めて経験した年齢 <sup>b</sup>			0.003
10歳以下	2 (0.8)	3 (1.3)	
11歳	1 (0.4)	0 (0.0)	
12歳	0 (0.0)	2 (0.9)	
13歳	6 (2.4)	7 (3.1)	
14歳	12 (4.9)	4 (1.8)	
15歳	21 (8.5)	12 (5.3)	
16歳	39 (15.8)	15 (6.6)	
17歳	38 (15.4)	22 (9.6)	
18歳	85 (34.4)	100 (43.9)	
19歳以上	43 (17.4)	63 (27.6)	
イッキ飲みの経験			<0.001
あり	62 (20.1)	166 (67.8)	
なし	247 (79.9)	79 (32.2)	
ブラックアウトの経験			<0.001
あり	16 (5.2)	78 (31.7)	
なし	293 (94.8)	168 (68.3)	
アルコールハラスメントを受けたことがある			<0.001
あり	14 (4.5)	58 (23.6)	
なし	295 (95.5)	188 (76.4)	

b: p-value for trend test

表5.喫煙に関する結果

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
生涯喫煙経験			<0.001
あり	58 (15.2)	67 (27.3)	
なし	324 (84.8)	178 (72.7)	
初回喫煙年齢 <sup>b</sup>			0.001
10歳以下	5 (8.8)	2 (3.0)	
11歳	3 (5.3)	1 (1.5)	
12歳	1 (1.8)	3 (4.5)	
13歳	4 (7.0)	7 (10.4)	
14歳	10 (17.5)	4 (6.0)	
15歳	10 (17.5)	6 (9.0)	
16歳	9 (15.8)	4 (6.0)	
17歳	5 (8.8)	2 (3.0)	
18歳	5 (8.8)	11 (16.4)	
19歳以上	5 (8.8)	27 (40.3)	
月喫煙経験(過去30日)			1.000
あり	26 (45.6)	31 (46.3)	
なし	31 (54.4)	36 (53.7)	
過去30日間の喫煙頻度 <sup>b</sup>			0.810
吸っていない	31 (54.4)	36 (53.7)	
吸ったが、週1回よりは少ない	2 (3.5)	1 (1.5)	
週に1回程度	2 (3.5)	0 (0.0)	
週に数回	3 (5.3)	8 (11.9)	
ほぼ毎日	19 (33.3)	22 (32.8)	
禁煙を試みたことがあるか？			0.001
ある	30 (54.5)	27 (52.9)	
考えたことはあるが実際にはない	1 (1.8)	12 (23.5)	
一度もない	24 (43.6)	12 (23.5)	

b: p-value for trend test

表6.薬物乱用をする仲間の存在

	新入生(n=382)			4年生(n=250)			p-value
	いない	いる	この薬物を知らない	いない	いる	この薬物を知らない	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
有機溶剤	328 (86.3)	9 (2.4)	43 (11.3)	202 (84.2)	6 (2.5)	32 (13.3)	0.743
大麻	329 (86.6)	14 (3.7)	37 (9.7)	197 (84.2)	10 (4.2)	32 (13.4)	0.326
覚せい剤	333 (87.6)	6 (1.6)	41 (10.8)	200 (83.3)	2 (0.8)	38 (15.8)	0.152
MDMA	302 (79.5)	2 (0.5)	76 (20.0)	198 (82.5)	1 (0.4)	41 (17.1)	0.738
コカイン	324 (85.3)	1 (0.3)	55 (14.5)	205 (85.4)	1 (0.4)	34 (14.2)	1.000
ガス	290 (76.3)	2 (0.5)	88 (23.2)	190 (79.2)	1 (0.4)	49 (20.4)	0.750
ラッシュ	253 (66.9)	1 (0.3)	124 (32.8)	181 (75.4)	0 (0.0)	59 (24.6)	0.037
向精神薬	297 (78.2)	12 (3.2)	71 (18.7)	191 (79.9)	16 (6.7)	32 (13.4)	0.037
リタリン	345 (64.6)	2 (0.5)	132 (34.8)	181 (75.7)	1 (0.4)	57 (23.8)	0.007
Any drug	— —	27 (7.1)	— —	— —	26 (11.0)	— —	0.106

表7.薬物乱用に誘われた経験

	新入生(n=382)			4年生(n=250)			p-value
	ない	ある	この薬物を知らない	ない	ある	この薬物を知らない	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
有機溶剤	363 (95.3)	3 (0.8)	15 (3.9)	220 (92.1)	3 (1.3)	16 (6.7)	0.230
大麻	364 (95.5)	5 (1.3)	12 (3.1)	218 (91.2)	6 (2.5)	15 (6.3)	0.095
覚せい剤	367 (96.3)	1 (0.3)	13 (3.4)	221 (92.5)	2 (0.8)	16 (6.7)	0.084
MDMA	335 (87.9)	0 (0.0)	46 (12.1)	211 (88.3)	1 (0.4)	27 (11.3)	0.535
コカイン	356 (93.4)	0 (0.0)	25 (6.6)	222 (92.9)	1 (0.4)	16 (6.7)	0.583
ガス	331 (86.9)	0 (0.0)	50 (13.1)	211 (88.3)	0 (0.0)	28 (11.7)	0.709
ラッシュ	299 (78.5)	0 (0.0)	82 (21.5)	202 (84.9)	1 (0.4)	35 (14.7)	0.030
向精神薬	342 (89.8)	3 (0.8)	36 (9.4)	222 (92.9)	2 (0.8)	15 (6.3)	0.367
リタリン	292 (76.6)	0 (0.0)	89 (23.4)	207 (87.0)	0 (0.0)	31 (13.0)	0.002
Any drug	— —	8 (2.1)	— —	— —	9 (3.8)	— —	0.312

表8.薬物使用経験

	新入生(n=382)			4年生(n=250)			p-value
	ない	ある	この薬物を知らない	ない	ある	この薬物を知らない	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
有機溶剤	367 (96.1)	1 (0.3)	14 (3.7)	227 (95.0)	1 (0.4)	11 (4.6)	0.846
大麻	369 (96.6)	2 (0.5)	11 (2.9)	225 (94.1)	3 (1.3)	11 (4.6)	0.332
覚せい剤	370 (96.9)	0 (0.0)	12 (3.1)	226 (94.6)	1 (0.4)	12 (5.0)	0.192
MDMA	338 (88.5)	0 (0.0)	44 (11.5)	216 (90.4)	1 (0.4)	22 (9.2)	0.274
コカイン	356 (93.2)	0 (0.0)	26 (6.8)	226 (94.6)	1 (0.4)	12 (5.0)	0.256
ガス	333 (87.2)	0 (0.0)	49 (12.8)	214 (89.5)	0 (0.0)	25 (10.5)	0.445
ラッシュ	305 (79.8)	0 (0.0)	77 (20.2)	205 (85.8)	1 (0.4)	33 (13.8)	0.039
向精神薬	344 (90.1)	3 (0.8)	35 (9.2)	226 (94.6)	1 (0.4)	12 (5.0)	0.110
リタリン	299 (78.5)	0 (0.0)	82 (21.5)	210 (87.9)	0 (0.0)	29 (12.1)	0.004
Any drug	— —	6 (1.6)	— —	— —	5 (2.1)	— —	0.757

表9.各乱用薬物の入手可能性

	新入生(n=382)				
	絶対不可能 n (%)	ほとんど不可能 n (%)	なんとか手に入る n (%)	簡単に手に入る n (%)	この薬物を知らない n (%)
有機溶剤	172 (45.0)	46 (12.0)	35 (9.2)	60 (15.7)	69 (18.1)
大麻	207 (54.2)	66 (17.3)	30 (7.9)	10 (2.6)	69 (18.1)
覚せい剤	217 (56.8)	63 (16.5)	23 (6.0)	10 (2.6)	69 (18.1)
MDMA	198 (52.1)	60 (15.8)	13 (3.4)	5 (1.3)	104 (27.4)
コカイン	208 (54.9)	64 (16.9)	11 (2.9)	7 (1.8)	89 (23.5)
ガス	161 (42.3)	47 (12.3)	22 (5.8)	39 (10.2)	112 (29.4)
ラッシュ	175 (46.1)	43 (11.3)	10 (2.6)	5 (1.3)	147 (38.7)
向精神薬	166 (43.6)	53 (13.9)	34 (8.9)	32 (8.4)	96 (25.2)
リタリン	164 (43.3)	40 (10.6)	13 (3.4)	6 (1.6)	156 (41.2)

表9.各乱用薬物の入手可能性(続き)

	4年生(n=250)					p-value
	絶対不可能 n (%)	ほとんど不可能 n (%)	なんとか手に入る n (%)	簡単に手に入る n (%)	この薬物を知らない n (%)	
有機溶剤	92 (38.7)	28 (11.8)	35 (14.7)	31 (13.0)	52 (21.8)	0.129
大麻	108 (45.6)	47 (19.8)	23 (9.7)	5 (2.1)	54 (22.8)	0.278
覚せい剤	116 (48.7)	42 (17.6)	20 (8.4)	4 (1.7)	56 (23.5)	0.211
MDMA	110 (46.4)	41 (17.3)	21 (8.9)	2 (0.8)	63 (26.6)	0.056
コカイン	113 (47.9)	39 (16.5)	26 (11.0)	2 (0.8)	56 (23.7)	0.001
ガス	98 (41.4)	29 (12.2)	23 (9.7)	23 (9.7)	64 (27.0)	0.491
ラッシュ	107 (45.3)	36 (15.3)	19 (8.1)	3 (1.3)	71 (30.1)	0.007
向精神薬	94 (40.3)	34 (14.6)	33 (14.2)	21 (9.0)	51 (21.9)	0.317
リタリン	103 (44.0)	32 (13.7)	24 (10.3)	5 (2.1)	70 (29.9)	0.001

表10.大麻乱用に対する意識と、大麻の栽培情報への曝露

4年生(n=175)	
n (%)	
大麻の危険性	
極めて危険だと思う	141 (83.4)
どちらかと言えば危険	22 (13.0)
どちらかと言えば安全	4 (2.4)
かなり安全	2 (1.2)
大麻を使ってみたいか？	
絶対使いたくない	147 (87.5)
どちらかと言えば使いたくない	15 (8.9)
どちらかと言えば使ってみたい	6 (3.6)
ぜひ使ってみたい	0 (0.0)
大麻情報を目にしたことがあるか？	
はい	17 (10.2)
いいえ	115 (69.3)
覚えていない	34 (20.5)



表11.大麻種子から連想されること(複数回答)

	4年生(n=175)	薬物依存者(n=397)*	p-value*
	n (%)	n (%)	
大麻の栽培	133 (80.6)	265 (66.8)	0.001
食材にする	10 (6.1)	56 (14.1)	0.006
インターネットで買う	61 (37.0)	69 (17.4)	<0.001
店で買う	3 (1.8)	31 (7.8)	0.006
観賞(見て楽しむこと)するもの	8 (4.8)	18 (4.5)	0.829
違法である	77 (46.7)	108 (27.2)	<0.001
違法ではない	23 (13.9)	57 (14.4)	1.000
特に何も思い浮かばない	10 (6.1)	62 (16.0)	0.001

\*昨年度のデータより(文献8,9)

表12.問題行動の経験(生涯経験率)

	新入生(n=382)	4年生(n=250)	p-value
	n (%)	n (%)	
停学あるいは退学	12 (3.1)	2 (0.8)	0.092
不登校	12 (3.1)	8 (3.4)	1.000
補導・逮捕	30 (7.9)	16 (6.7)	0.640
無断外泊	40 (10.5)	39 (16.4)	0.035
いじめの被害経験	81 (21.2)	49 (20.6)	0.919
いじめの加害経験	66 (17.3)	28 (11.8)	0.066
過食	26 (6.8)	20 (8.4)	0.529
拒食	16 (4.2)	16 (6.7)	0.192
食べ吐き	13 (3.4)	12 (5.0)	0.401
万引き	39 (10.2)	16 (6.7)	0.149
自傷行為	18 (4.7)	6 (2.5)	0.202
出会い系サイトの利用	18 (4.7)	7 (2.9)	0.303
ギャンブルがやめられない	12 (3.1)	15 (6.3)	0.070
身体的暴力	23 (6.0)	10 (4.2)	0.363
家族から身体的暴力の被害	16 (4.2)	9 (3.8)	1.000
クラブやレイブ	8 (2.1)	37 (15.5)	<0.001
暴走行為	7 (1.8)	3 (1.3)	0.749
器物損壊	24 (6.3)	4 (1.7)	0.009
家出	28 (7.3)	14 (5.9)	0.516

レイブ:音楽を一晩中流し、それに合わせて踊る野外イベント

表13.精神的健康度(GHQ)の平均点

	新入生(n=382)	4年生(n=75)
GHQ平均値	6.13	8.01
(min-max)	(0-23)	(0-27)
男性平均値	5.37	7.00
女性平均値	6.48	9.52

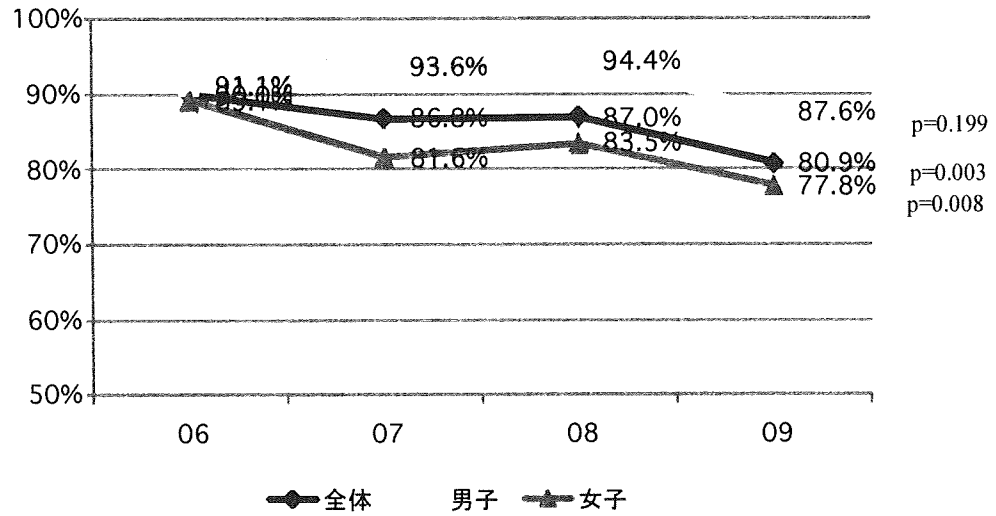


図 1.生涯飲酒経験の推移 (2006～2009 年)

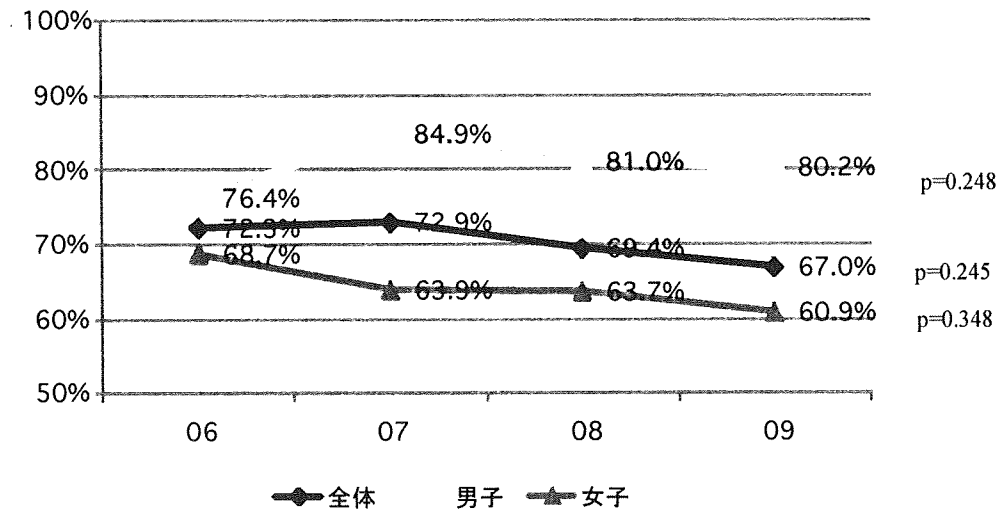


図 2.月飲酒経験の推移 (2006～2009 年)

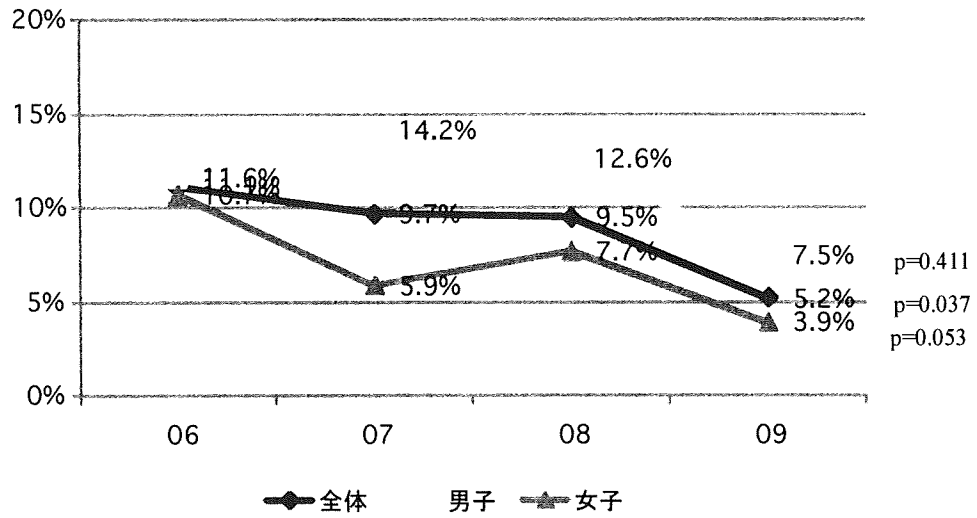


図 3.ブラックアウト経験の推移 (2006～2009年)

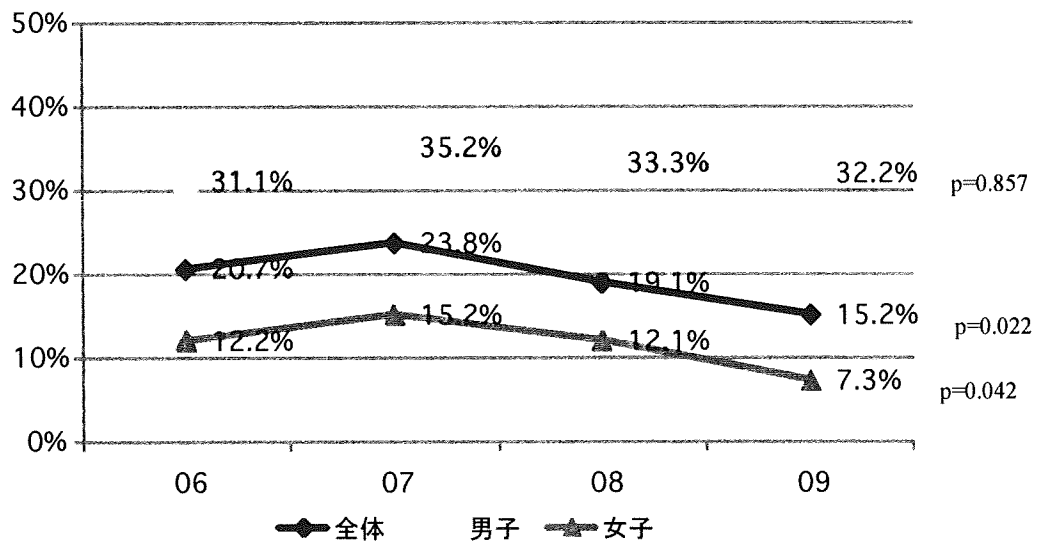


図 4.生涯喫煙経験の推移 (2006～2009年)

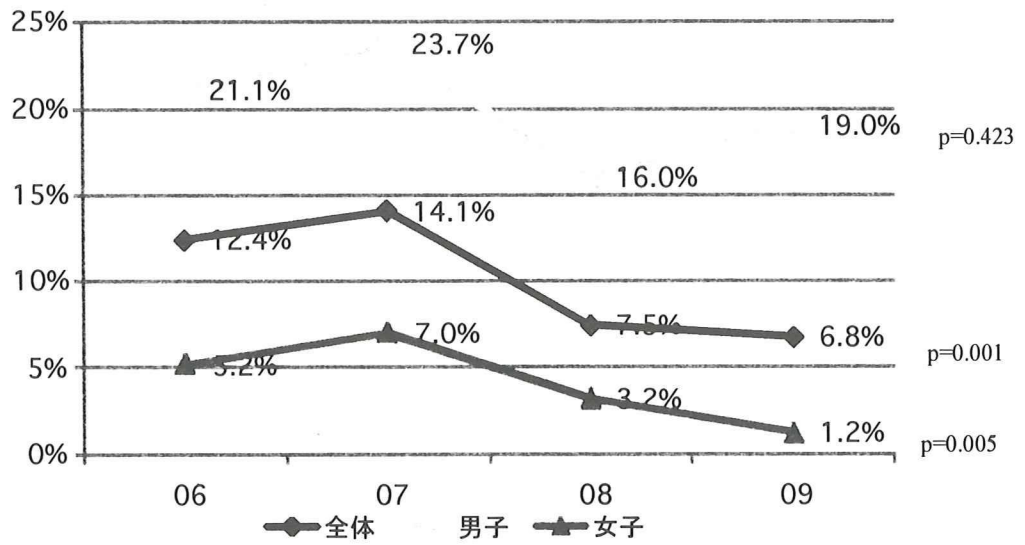


図 5.月喫煙経験の推移 (2006～2009 年)

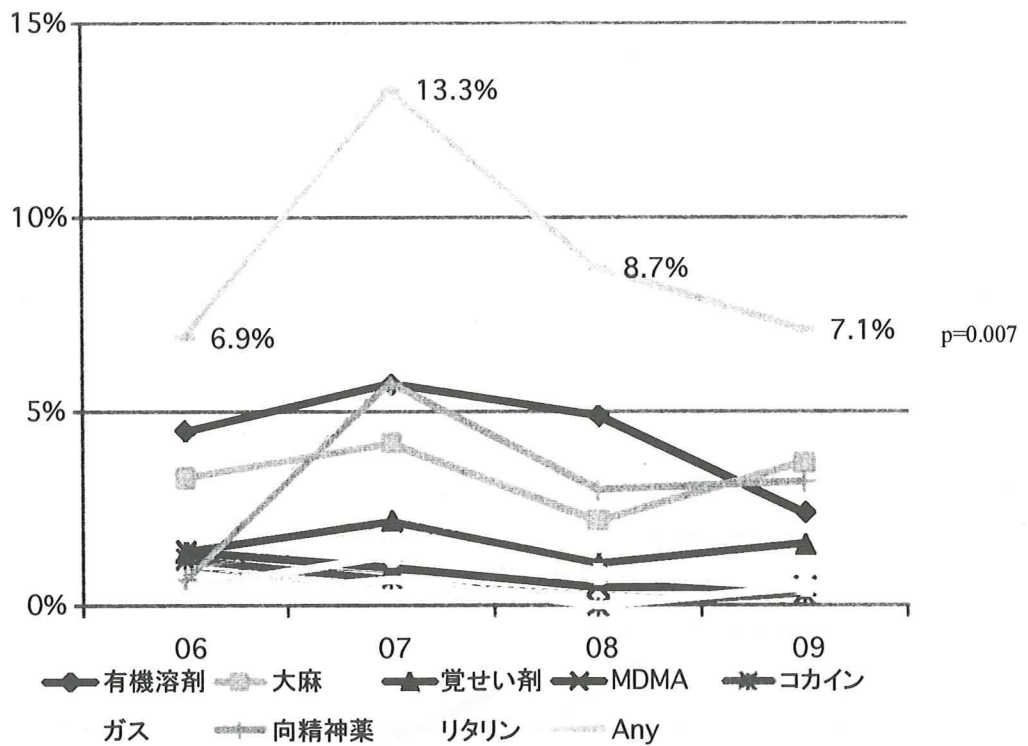


図 6.身近に薬物乱用者がいる割合の推移 (2006～2009 年)